



東山魁夷<森の幻想>(習作)1969年

絵のなかのリズム

2010年6月3日(木)▷7月13日(火)

休館日 毎週水曜日

人はその生涯の旅路の上で、幾度か邂逅と別離、親愛と忘却を重ねてゆく。

もし、長い年月を共に歩み、喜びと悲しみを共にする好伴侶に巡り会えたとすれば、その仕合せは計り知れないものがある。それはこの世に在る人の場合だけに限らない。時間と空間を超えて、励ましと慰めを与えてくれる良き師、良き友に出会える機会を、私達は生涯持っているものである。

いつの間にか年齢を重ね、旅路の大半が過去のものとなった私は、幸いな巡り合いに幾度か恵まれてきたが、その大きな喜びのひとつは、モーツァルトの音楽との邂逅である。(中略)モーツァルトの音楽を聴いていると、モーツァルトという人間の創り出したものではなく、ミューズの女神が、モーツァルトという透明な形体を借りて、自分の思いのままに自分の歌を歌わせているとしか考えられない場合が多い。どんな時でも、至高の美の反映を宿していると感じられる。モーツァルト自身が、無心であればあるほど…。

『東山魁夷画文集7 オーストリア紀行-馬車よ、ゆっくり走れ-』「モーツァルトとの邂逅」1979 新潮社

No.	作品名	制作年	分類	取材地
形のリズム				
1	松尾神社にて	1964 ~ 1966	連作「京洛四季」 スケッチ	京都府、嵐山
2	伏見の酒倉	1964 ~ 1966	連作「京洛四季」 スケッチ	京都府、伏見
3	寺の塀	1964 ~ 1966	連作「京洛四季」 スケッチ	京都府、大徳寺
4	青い峡	1964 ~ 1966	連作「京洛四季」 習作	京都市、周山街道
色のリズム				
5	赤い屋根	1969	連作「古都を描く」 習作	ドイツ ローテンブルク
6	ツェレの家	1969	連作「古都を描く」 習作	ドイツ、ツェレ
7	龍安寺塀	1964 ~ 1966	連作「京洛四季」 スケッチ	京都市竜安寺
8	夏に入る	1964 ~ 1966	連作「京洛四季」 習作	京都府大山崎町
音のリズム				
9	鐘楼の窓	1969	ドイツ・オーストリアの旅 スケッチ	オーストリア
10	渚にて	1973	第一期招徠寺御影堂壁画 のための準備作(連)スケッチ	
11	森の幻想	1969	連作「古都を描く」 習作	オーストリア
12	ミラベル宮廷園	1969	ドイツ・オーストリアの旅 スケッチ	オーストリア ザルツブルク
13	月篋 スケッチC	1966	第10回新日展のため の準備作	京都市右京区、嵯峨野
14	月篋 スケッチD	1966	第10回新日展のため の準備作	京都市右京区、嵯峨野
15	月篋 大下図	1967	第10回新日展のため の準備作	京都市右京区、嵯峨野
16	月篋 スケッチB	1966	第10回新日展のため の準備作	京都市右京区、嵯峨野
17	月篋 スケッチA	1966	第10回新日展のため の準備作	京都市右京区、嵯峨野
18	月篋 スケッチE	1966	第10回新日展のため の準備作	京都市右京区、嵯峨野
19	桂離宮書院	1964 ~ 1966	連作「京洛四季」 スケッチ	京都府桂離宮
20	東福寺の庭	1964 ~ 1966	連作「京洛四季」 スケッチ	京都府東福寺
21	桂の敷石	1964 ~ 1966	連作「京洛四季」 スケッチ	京都府桂離宮
22	二條城の石垣	1964 ~ 1966	連作「京洛四季」 スケッチ	京都市二条城

No.	作品名	制作年	分類	取材地
23	森の静寂 小下図	1964	第6回現代日本美術展の ための準備作	デンマーク ディアハーヴェン
24	森の静寂 大下図	1964	第6回現代日本美術展の ための準備作	デンマーク ディアハーヴェン
25	フレデンスボーの森	1962	北欧風景スケッチ	デンマーク フレデンスボー
26	リーベの家	1962	北欧風景スケッチ	デンマーク、リーベ
27	古い壁	1962	北欧風景スケッチ	デンマーク、リーベ
28	肉庭	1962	北欧風景スケッチ	デンマーク、リーベ
29	古き町にて	1962	北欧風景スケッチ	デンマーク オールフス
30	静かな町	1969	連作「古都を描く」 習作	ドイツ ヴィムブヘン
31	静かな町	1971	本制作	ドイツ ヴィムブヘン
32	ローテンブルクの門	1969	連作「古都を描く」 習作	ドイツ ローテンブルク
33	マリアの壁	1969	連作「古都を描く」 習作	オーストリア エッツ
34	裏窓	1969	ドイツ・オーストリアの旅 スケッチ	オーストリア
35	石の窓	1969	連作「古都を描く」 習作	ドイツ ネルトリンゲン
36	石の窓	1971	本制作	ドイツ ネルトリンゲン
37	鐘のある窓	1969	ドイツ・オーストリアの旅 スケッチ	ドイツ
38	午後の窓	1969	ドイツ・オーストリアの旅 スケッチ	オーストリア オーベルンドルフ
39	人形芝居の小屋	1969	ドイツ・オーストリアの旅 スケッチ	ドイツ
40	ホルシュテン門の窓	1969	ドイツ・オーストリアの旅 スケッチ	ドイツ リュエベック
41	冬の旅 小下図	1989	改組第21回日展の ための準備作	秋田県鹿角市、湯瀬
42	冬の旅	1989	本制作	秋田県鹿角市、湯瀬
43	木枯らし舞う	1997	本制作	ドイツ北部
44	描かれた壁	1969	ドイツ・オーストリアの旅 スケッチ	オーストリア、ロイテ
45	穀倉	1969	ドイツ・オーストリアの旅 スケッチ	ドイツ ディンケルスビュール
46	木組みの家	1969	ドイツ・オーストリアの旅 スケッチ	ドイツ
47	リュエデスハイムにて	1969	ドイツ・オーストリアの旅 スケッチ	ドイツ リュエデスハイム

No.	作品名	制作年	分類	取材地
48	山かげ 小下図	1957	第13回日展のための準備作	神奈川県箱根町塔之沢
49	山かげ スケッチ	1956	第13回日展のための準備作	神奈川県箱根町塔之沢
50	山かげ 大下図A	1957	第13回日展のための準備作	神奈川県箱根町塔之沢
51	山かげ 大下図B	1957	第13回日展のための準備作	神奈川県箱根町塔之沢
52	山かげ 大下図C	1957	第13回日展のための準備作	神奈川県箱根町塔之沢
唐招提寺御影堂障壁画のための準備作				
53	波頭	1973	第一期唐招提寺御影堂障壁画のための準備作[海]スケッチ	
54	海風	1973	第一期唐招提寺御影堂障壁画のための準備作[海]スケッチ	
55	浜に寄せる波	1973	第一期唐招提寺御影堂障壁画のための準備作[海]スケッチ	
56	青濤	1973	第一期唐招提寺御影堂障壁画のための準備作[海]スケッチ	
57	荒磯	1973	第一期唐招提寺御影堂障壁画のための準備作[海]スケッチ	
58	濤声 小下図	1973	第一期唐招提寺御影堂障壁画のための準備作	
59	濤声 中下図	1973	第一期唐招提寺御影堂障壁画のための準備作	
柳樹				
60	柳樹 A	1976 ～1977	第二期唐招提寺御影堂障壁画のための準備作スケッチ	中国、揚州
61	柳樹 B	1976 ～1977	第二期唐招提寺御影堂障壁画のための準備作スケッチ	中国、揚州
62	柳樹 C	1976 ～1977	第二期唐招提寺御影堂障壁画のための準備作スケッチ	中国、揚州
63	柳樹 D	1976 ～1977	第二期唐招提寺御影堂障壁画のための準備作スケッチ	中国、揚州
64	柳樹 E	1976 ～1977	第二期唐招提寺御影堂障壁画のための準備作スケッチ	中国、揚州
65	柳樹 F	1976 ～1977	第二期唐招提寺御影堂障壁画のための準備作スケッチ	中国、揚州
66	柳樹 G	1976 ～1977	第二期唐招提寺御影堂障壁画のための準備作スケッチ	中国、揚州
67	柳樹 H	1976 ～1977	第二期唐招提寺御影堂障壁画のための準備作スケッチ	中国、揚州

No.	作品名	制作年	分類	取材地
新潮表紙のデザイン				
68	季の詩 1月	1997	リトグラフ	
69	季の詩 2月	1997	リトグラフ	
70	季の詩 3月	1997	リトグラフ	
71	季の詩 4月	1997	リトグラフ	
72	季の詩 5月	1997	リトグラフ	
73	季の詩 6月	1997	リトグラフ	
74	季の詩 7月	1997	リトグラフ	
75	季の詩 8月	1997	リトグラフ	
76	季の詩 9月	1997	リトグラフ	
77	季の詩 10月	1997	リトグラフ	
78	季の詩 11月	1997	リトグラフ	
79	季の詩 12月	1997	リトグラフ	
ピエゾグラフによる代表作				
80	夕静寂	1974	ピエゾグラフ	長野-岐阜県、奥穂高
81	白馬の森	1972	ピエゾグラフ	富士山五合目 ブナ原生林
82	東山魁夷愛用品			
83	古道具屋	1971	セリグラフィ	京都市上京区、西陣
84	京洛四季	1969	書籍	

* 展示作品は都合により変更となる場合があります。

ピエゾグラフとは

ピエゾグラフは、セイコーエプソン(株)のインクジェットプリントの技術の総称で、再現性の高さと繊細な仕上がりが特徴です。原画の表面の凹凸や陰影、絵具の重なりまで再現可能です。

日本画は特に保存が難しい美術作品です。長野県信濃美術館・東山魁夷館の東山作品も将来に遺すために公開期間を年約2ヶ月に制限しています。一年をとおして東山魁夷の代表作をお楽しみいただくため、当館では東山すみ夫人監修のもと、セイコーエプソン(株)のご協力により、ピエゾグラフ作品をご寄贈いただきました。

* ピエゾグラフおよびエプソンピエゾグラフは、セイコーエプソン株式会社の登録商標です。

東山魁夷(ひがしやま かいい) 略歴

明治41(1908)年横浜に生まれ、3歳のとき神戸にうつる。東京美術学校日本画科を卒業。昭和8(1933)年ドイツに留学。日展に出品をつづけ、22(1947)年特選受賞。31(1956)年日本芸術院賞受賞。40(1965)年日本芸術院会員となる。44(1969)年文化勲章受章。皇居新宮殿壁画、唐招提寺御影堂障壁画等を制作。平成11(1999)年5月6日逝去。享年90歳。

東山魁夷館

東山魁夷は信州について、東京美術学校の学生時代から、信州へのスケッチ旅行を重ね、「わたしの作品を育ててくれた故郷」と呼んでいました。平成2(1990)年、長野県に家蔵の本制作、スケッチ、習作、下図等が寄贈され、長野県信濃美術館に併設して東山魁夷館が開館しました。(収蔵作品数は現在約960点)

作品の分類について

「本制作」: 主に展覧会への出品を前提に描かれたもので、当館収蔵の作品は1970年代から晩年にいたる作品が中心となっています。

「スケッチ」「習作」: 東山魁夷自身による分類で、スケッチが实景の写生であるのに対し、習作は構図や色彩に作者なりの解釈をほどこしたもので、内容的には本制作に一步近づいたものといえるでしょう。